



杉中技術企画課長に要望書を手渡し八尋副会長

# 設計士会が次期港湾基準の改訂に向けて港湾局長に要望 11月4日

海洋・港湾構造物設計士会(会長＝山本修司、以下

設計士会)は、11月4日(水)、東京・霞が関の国土交通省港湾局で、八尋明彦設計士会副会長が高田昌行国土交通省港湾局長に宛て、令和2年度同会の要望書を杉中洋一技術企画課長へ手渡した。

要望当日は、奥田健国土交通省港湾局技術企画課技術監理室長、内藤孝国土交通省港湾局技術企画課建設企画室長らが出席した。

設計士会は、会員数が129名、事務局を㈱日本港湾コンサルタントが務める。

同会は、2018年7月に公表した港湾の中長期政策「PORT2030」の基本的理念に基づく港湾が果たすべき役割、および中

長期政策の方向性の実現を図るために必要となると考えられる「広義の設計論」について、本年10月28日に開催した研修会をはじめ、4回の研修会や、回の目下部治顧問を座長とする座談会を通じて議論を重ねてきた。

また、2019年8月には(一社)港湾技術コンサルタント協会と共同で、全会員に対して現行の基準・同解説の適切な運用と次期改訂に資することを目的と

したアンケート調査を実施した。

その調査結果に基づいて次期改訂に際して反映を希望する事項を議論してきた。

これまでの議論に基づき、令和2年度同会の要望書では、以下の次項を要望した。

2018年に改訂された「港湾施設の技術上の基準・同解説」「基準・同解説」における性能設計の体系において、

①施設に関わる要求性能および性能規定に対して「PORT2030」を受けて制定された「港湾の開発、利用および保全並びに開発保全航路の開発」に関する基本方針で明記された戦略的機能を反映したものとするため、現行の性能設計の枠組みに建築基準法と同様に「要求機能」を「要求性能・性能規定」の上位に設定すること。

②戦略的機能に応じた要求性能・性能規定の具体的な設定については、港湾管理者や民間企業による地域の振興や顧客サービスの向上等の創意工夫によるところが大きいため、施設の規模および配置を決定する港湾計画において検討すること。

このため港湾計画において、これまでの「能力」の上位に「機能」に関わる事項も決定事項とすることを要望した。

さらに次期改訂に際しては、以下の通り。

- ・開端杭の先端閉塞率
- ・L2地震動に対する直杭式棧橋杭の限界曲率の性能照査方法
- ・棧橋上部工に作用する揚圧力
- ・船舶のスクリューやスタスターによる洗掘の評価方法

など、15項目であった。